

## 第2章 施設のコンセプト

### 1 施設の機能

#### 基本的な考え方

新総合体育館については、平成29年5月に設置された大規模スポーツ施設の在り方検討委員会において検討がなされ、翌年2月に知事に提出された提言書において、「スポーツ振興の拠点としての機能に加え、コンサート・イベントなど多目的利用による交流拠点機能があることが望ましい」とされた。

検討委員会においては、この提言を踏まえ、具体的な施設の機能、規模・構成等の検討を行った。

#### (1) スポーツ振興の拠点機能

現体育館の現状・課題や、需要予測調査結果を踏まえると、新総合体育館は、「する」スポーツをベースとした、アスリートファーストの施設とすることとする。

#### するスポーツ

屋内スポーツ競技の中核的な施設（聖地）として、県大会をはじめとする各種大会の円滑な運営や、全国・国際大会の誘致が可能な施設とする。

- 子ども達をはじめ、全てのアスリートにとってのシンボルとなる施設
- これまで分散開催されていた各競技の県大会等が集約して開催でき、新たに全国・国際大会が開催できる規模・設備を有する施設

#### みるスポーツ

県民が一流のスポーツイベントに触れる機会を創出するほか、他県施設との差別化、市町村との役割分担の明確化、サステナビリティの視点から「みる」スポーツにも対応できる施設とする。

- トップアスリートやプロの試合を間近に見ることができ、スポーツ振興やスポーツツーリズムの拠点として交流人口の拡大を図ることができる施設
- 運営する側にとって使いやすく、観客にとって観やすいよう配慮された構造・設備を有する施設

#### ささえるスポーツ

スポーツ科学の研究・提供機能（鹿屋体育大学等との連携を検討）、スポーツ情報発信機能、スポーツ関係者の交流・ネットワーク拠点機能など、本県のスポーツ振興を「ささえる」人材を育成する施設とする。

- 鹿屋体育大学などの教育機関や屋内スポーツ競技団体との連携を図ることにより、競技者のみならずスポーツ指導者など、人材育成の拠点としての機能を有する施設



- 競技力の向上や競技人口の増加を図る。
- 県民、とりわけ将来を担う鹿児島の子供達に良質なスポーツ環境の提供を図る。



スポーツ大会



プロスポーツ

(2) 多目的利用による交流拠点機能

多目的利用

コンサート・イベント（M I C E）等の開催を通じ、スポーツをする人もしない人も、また、様々な年代の人々が交流できる施設とする。

- 鹿児島県においてこれまで開催できなかった大規模のコンサートやこれまでより規模の大きなコンベンション(学会等)が開催できる施設
- コンベンション等を周辺の施設と連携して開催することによりエクスカージョンなどを含め、周辺の交流人口の増加や経済効果を高めることができる施設



- 様々な人々の交流による賑わいを生み出すとともに、周辺地域への波及等による経済波及効果など、地域活性化を図る。
- 施設の持続可能性の観点から収益性を高める。



コンサート



イベント（展示会）

《 参考 》 需要予測調査結果について

調査方法

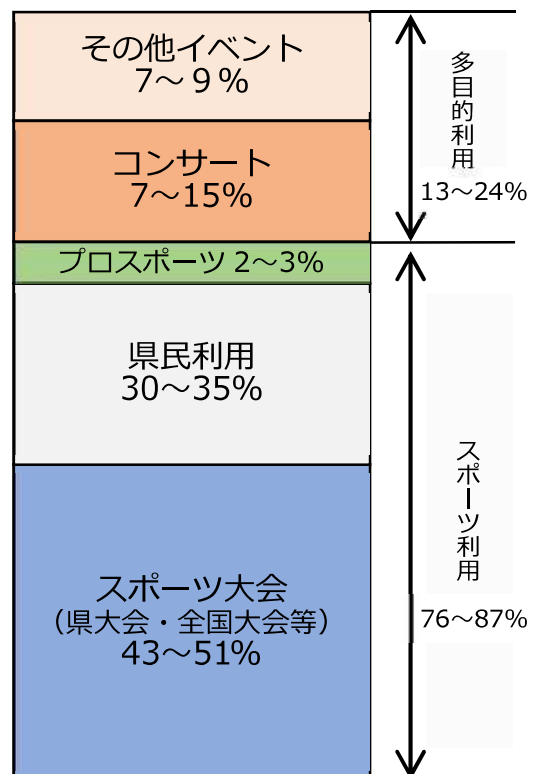
- ・ 全国の類似施設 62 施設を対象に調査を実施  
(調査内容) 施設の規模・構成, 利用状況, 稼働率, 開催された主なイベント 等
- ・ 全国・県内競技団体に対し, 利用意向について調査を実施  
(調査内容) 開催が想定される全国大会等, 開催に必要な条件(施設・立地) 等  
県大会等の利用意向, 施設に対する意見 等
- ・ イベントやMICEの実績のあるプロモーターに対し, 需要や誘致可能性について調査を実施  
(調査内容) 利用意向, 想定されるイベント, 望ましい条件, 市場動向 等

調査結果

- ・ 施設の稼働率については, メインアリーナで概ね 79%~94%程度
- ・ 利用の割合については, スポーツ利用が概ね 76%~87%, 多目的利用が概ね 13%~24%
- ・ 利用者数については, 概ね 28 万人~41 万人(メインアリーナ:概ね 20~33 万人)

<メインアリーナの利用割合>

利用形態		利用日数
スポーツ利用	県大会	125~137 日
	全国大会等	14~16 日
	プロスポーツ	6~9 日
	県民利用	100 日
	計	245~262 日
多目的利用	コンサート	20~48 日
	その他イベント	20~28 日
	計	40~76 日
計		285~338 日



## 2 施設の規模・構成

各施設については、各種競技の大会基準等を基に必要最小限の規模を設定した。

また、競技団体からのヒアリング調査により利用日数を把握した。

その結果、想定される年間利用形態は、スポーツ利用日数が約7割と見込まれ、残りの約3割は、この施設規模の範囲内で、コンサート、イベント等の多目的利用に有効利用することとなる。

### 施設の規模・構成の考え方

#### ① 競技面数・フロア面積

主な利用者である屋内スポーツ競技団体に対し、各種大会における運営の状況や開催に必要な基準(国体基準等)について調査の上、必要な競技面数・フロア面積を整理

#### <メインアリーナ>

	競技面数			必要規模 (m,m <sup>2</sup> )		
	短辺	長辺	面数	短辺	長辺	面積
バレーボール	1	4	4	31.0	76.0	2,356
バスケットボール	1	4	4	34.0	<b>81.0</b>	2,754
ハンドボール	1	3	3	<b>46.0</b>	78.0	3,588
バドミントン	5	5	25	40.5	77.0	3,119
卓球	3	20	60	36.0	80.0	2,880
体操	—	—	—	—	—	2,000
柔道	2	4	8	32.0	60.0	1,920
剣道	2	4	8	28.0	56.0	1,568
最大規模				<b>46.0</b>	<b>81.0</b>	<b>3,726</b>
(類似施設の平均)				45.0	81.6	3,681

#### <サブアリーナ>

	競技面数			必要規模 (m,m <sup>2</sup> )		
	短辺	長辺	面数	短辺	長辺	面積
バレーボール	1	2	2	31.0	38.0	1,178
バスケットボール	1	2	2	<b>34.0</b>	41.0	1,394
ハンドボール	1	1	1	26.0	<b>46.0</b>	1,196
バドミントン	2	6	12	29.8	43.6	1,299
卓球	8	3	24	32.0	36.0	1,152
体操	—	—	—	—	—	2,000
柔道	2	3	6	32.0	46.0	1,472
剣道	2	3	6	28.0	42.0	1,176
最大規模				<b>34.0</b>	<b>46.0</b>	<b>1,564</b>
(類似施設の平均)				33.1	42.0	1,485

## &lt;柔剣道場&gt;

	競技面数			必要規模 (m,m <sup>2</sup> )		
	短辺	長辺	面数	短辺	長辺	面積
柔道	2	2	4	29.0	29.0	841
剣道	2	2	4	28.0	28.0	784
最大規模				<b>29.0</b>	<b>29.0</b>	<b>841</b>
(類似施設の平均)				-	-	1,020

これらを踏まえ、「する」スポーツに適した施設構成として、メインアリーナ:バスケットボールコート4面, サブアリーナ:バスケットボールコート2面, 柔剣道場:各2面, 弓道場を想定

フロア面積については、メインアリーナ: $3,726 \text{ m}^2 (46\text{m} \times 81\text{m}) + \alpha$ , サブアリーナ: $1,564 \text{ m}^2 (34\text{m} \times 46\text{m}) + \alpha$ , 柔剣道場: $841\text{m} (29\text{m} \times 29\text{m}) + \alpha$  とする。

これらの面積については必要最小限の規模とし、今後、設計段階で検討することとする。

② 観客席

スポーツ利用や多目的利用など、フロアの利用形態により、使用する観客席の範囲が異なることから、利用形態ごとに必要な席数(収容人数)について、スポーツ大会の基準や運営状況、コンサート等の需要予測調査結果をもとに整理

<観客席の規模>

利用形態	アマチュアスポーツ大会等 (コート4面)	プロスポーツ大会等 (センターコート1面)	コンサート等
〔観客席数の基準等〕 ●は最大値			
基準等	<全国高校総体基準> ○2,000席以上(バスケ) ○2,000席以上(体操) ○2,000席以上(剣道) ○1,500席以上(バレー) ○1,500席以上(卓球) ○1,500席以上(柔道) ○1,000席以上(バド)	<プロリーグ規約等> ○5,000席以上(Bリーグ) <b>※将来的に8,000席以上を想定</b> ○3,000席以上(Vリーグ) ○1,500席以上(Fリーグ) <国際大会基準> ●8,000席以上(バスケ) ○5,000席以上(バレー) <全国高校総体基準> ○5,000席以上(バスケ決勝)	—
需要予測 調査結果	<中央競技団体> — <県内競技団体> ●3,000人程度(バレー 中学・高校県総体等) ○2,000人程度(バスケ 中学・高校県総体等)	<中央競技団体> ○5,000人以上(バスケ日本 代表国際大会) <県内競技団体> ○3,000人程度(春高バレー 県大会決勝) ○2,000人程度(バスケウイ ンターカップ県大会決勝)	<プロモーター> ●8,000人以上
必要席数	3,000席以上	8,000席以上	8,000席以上
〔参考：類似施設の平均値〕			
固定席	約4,300席		
可動席	使用しない	約2,000席	
移動席	使用しない	利用可(約1,900席)	約1,900席
収容人数	約4,300人	約8,200人	約8,200人

観客席(最大収容人数)については、上記のとおり将来的な国際大会等の誘致を見据えるとともに、コンサート需要を踏まえ、8千席程度を想定

## ③ 諸室

新総合体育館に必要な更衣室、運営本部室など諸室の構成や規模について、アリーナ標準や各種大会等における基準及び類似施設の状況を調査し、諸室ごとの必要規模と、これを積み上げた諸室全体の理論値を整理

## &lt;メインアリーナ&gt;

諸室	用途等	必要面積 (㎡)
器具庫	器具庫 (メイン・サブ)	1,120
更衣室	更衣室, 監督室, 審判更衣室等	686
会議室	運営本部室, 記者室, 記者会見室等	572
V I P室	V V I P・V I Pラウンジ	158
事務室等	事務室, その他管理諸室, 設備室等	1,987
放送記録室	放送・記録室	18
医務室	医務室・救護室	50
その他	トレーニング室, 多目的室	764
合計		<b>5,355</b>

## &lt;柔剣道場&gt;

諸室	用途等	必要面積 (㎡)
更衣室	更衣室	58
その他諸室	器具庫, 控室等	117
合計		<b>175</b>

## &lt;弓道場 (近的) &gt;

諸室	用途等	必要面積 (㎡)
更衣室	更衣室	100
その他諸室	器具庫, 控室等	210
合計		<b>310</b>

## &lt;弓道場 (遠的) &gt;

諸室	用途等	必要面積 (㎡)
更衣室	更衣室	59
その他諸室	器具庫, 控室等	126
合計		<b>185</b>

諸室については、「みる」スポーツにも対応するため、関係者控室やメディア対応等に必要な諸室を充実

また、これらの整備により、アリーナと合わせてコンベンション・展示会場としての利用も可能

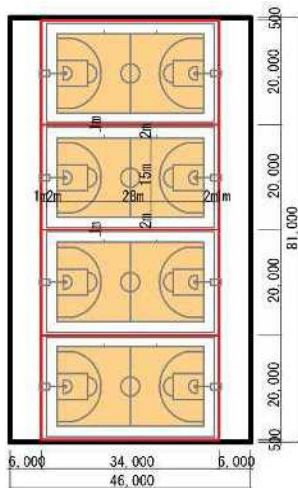
## 各施設構成の概要

### (1) メインアリーナ

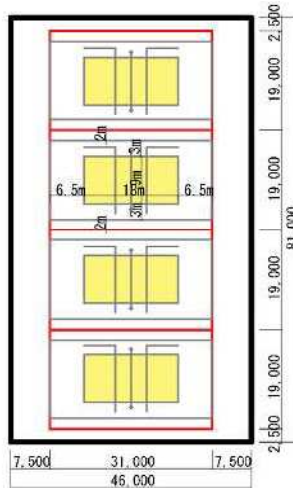
県大会をはじめ、全国・国際大会等の各種大会やコンサート・イベント等の開催などを想定  
MICE の開催時には、開会式会場や展示会場等としての利用を想定

- ・ 競技フロア:バスケットボールコート 4 面, フロアサイズ:(46.0m×81.0m)+ α
- ・ 観客席(最大収容人数):8千席程度
- ・ メインアリーナの床は、スポーツ利用に最適で、コンサート・イベントなど多目的利用においても機能的な仕様とすべく、類似施設の状況も参考に検討を進める。

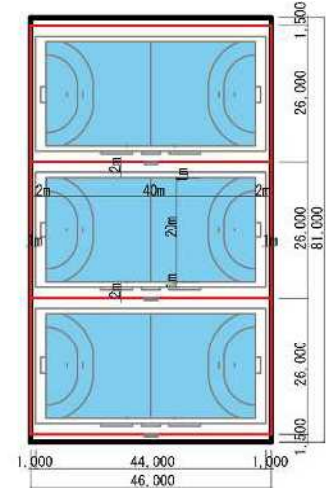
<コートレイアウトの例> (単位 : m)



バスケットボールコート 4 面



バレーボールコート 4 面



ハンドボールコート 3 面

### (2) サブアリーナ

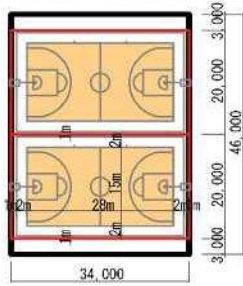
一定規模の大会開催をはじめ、メインアリーナを主会場とする大会やイベント等の開催時におけるサブ会場、アップ会場、コンサート開催時におけるグッズ販売会場としての利用及び日常の県民利用などを想定

MICE の開催時には、講演やシンポジウム等の会場としての利用を想定

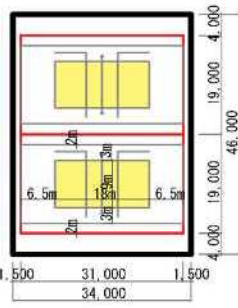
- ・ 競技フロア:バスケットボールコート 2 面, フロアサイズ:(34.0m×46.0m)+ α
- ・ 観客席: 500 席程度 ※設計段階で配置等を含めて具体的に検討



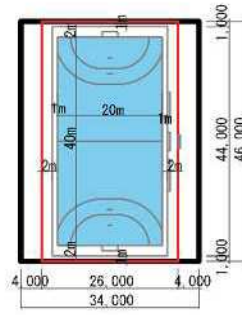
<コートレイアウトの例> (単位：m)



バスケットボールコート 2面



バレーボールコート 2面



ハンドボールコート 1面

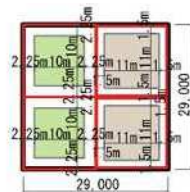
### (3) 柔剣道場

柔道、剣道等の大会開催をはじめ、メインアリーナやサブアリーナを主会場とする大会やイベント等の開催時におけるアップ会場、控室としての利用及び日常の県民利用などを想定

MICE の開催時には、ワークショップ、パネルディスカッション等の会場としての利用を想定

- ・ 競技フロア：柔道場 2 面・剣道場 2 面(計 4 面), フロアサイズ:(29.0m×29.0m)+ α
- ・ 観客席： 400 席程度 ※設計段階で配置等を含めて具体的に検討

<コートレイアウトの例> (単位：m)



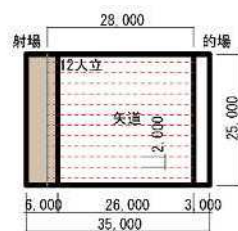
柔道場 2 面・剣道場 2 面 (計 4 面)

### (4) 弓道場

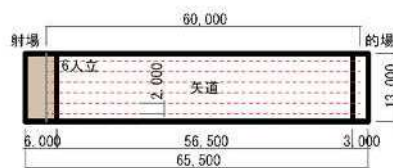
弓道大会の開催や日常の県民利用などを想定

- ・ 近的 12 人立, 遠的6人立
- ・ 観客席： 150 席程度 ※設計段階で配置等を含めて具体的に検討

<コートレイアウトの例> (単位：m)



近的 12 人立



遠的 6 人立

## (6) 諸室

県大会をはじめ、全国・国際大会等の各種大会やコンサート・イベント等の開催に必要な規模を確保するとともに、可動間仕切りの設置等によりフレキシビリティな多目的室を設置するなど、効率的な構成を計画する。また、イベント開催時における選手・観客・VIP等の動線や資機材等の搬入・搬出に配慮した機能的な配置を計画する。

諸室のうち会議室等については、MICE の開催時には、講演やシンポジウム、ワークショップ、パネルディスカッション等の会場としての利用を想定

- ・ 器具庫, 更衣室, 会議室, VIP室など
- ・ 必要面積: 5,355 m<sup>2</sup> ± α

## (7) その他機能

大規模イベント等の開催に安全で支障のない十分な広さがあり、飲食・物販機能等を有するロビー空間や多数の来場者を想定した必要な数のトイレを計画する。

また、諸室やロビー空間を効率的に活用することなどにより、下記の機能等について導入を検討する。

- ・ スポーツ科学の研究・提供機能(例:鹿屋体育大学のサテライト, トップアスリートの養成機能)
- ・ スポーツ情報発信機能(例:スポーツ博物館, ライブラリー機能)
- ・ スポーツ関係者の交流・ネットワーク拠点機能(大会期間外も含めた総合支援拠点)
- ・ スポーツ指導者の養成拠点機能  
(例:部活動指導員, 障害者スポーツ指導者, スポーツボランティアの育成)
- ・ アスリートの競技力向上や県民の健康増進を図るためのトレーニング機能
- ・ 健康増進(ヘルス)サービス機能(ウェルネス情報発信)
- ・ 競技者以外でも気軽に来場できる仕組みづくり(例:展望デッキ, ファミリーシートの設置, 足湯などの癒やしの空間づくり など)
- ・ 若者がスポーツに関心を持てる仕組みづくり(例:スポーツクライミング, ニュースポーツ など)

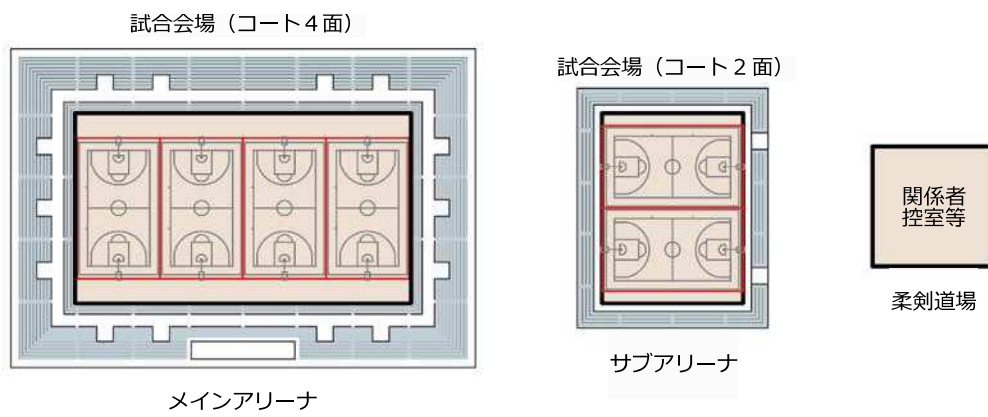
利用イメージ

(1) スポーツ利用

① 県大会・全国大会等（準々決勝まで）

<バスケットボールの例>

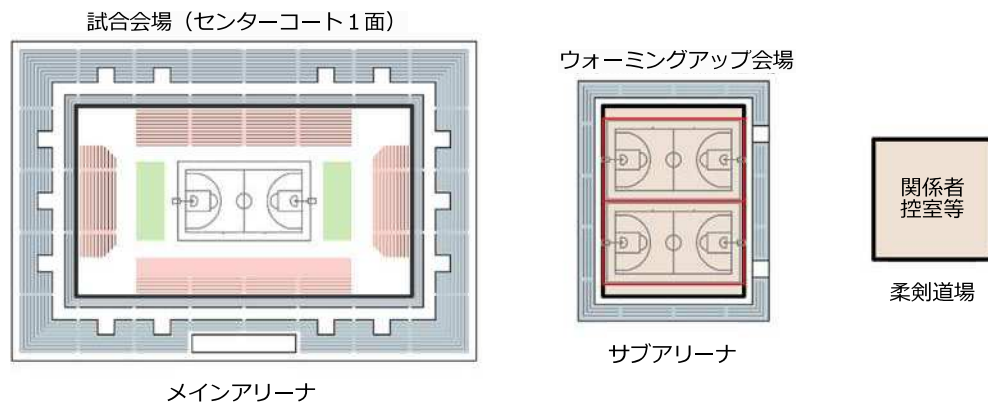
- ・ メインアリーナ、サブアリーナの全面(計6面)を試合会場として利用
- ・ 諸室は、会議室(役員会議, 審判会議), 関係者控え室などで利用
- ・ 大規模な大会の場合は、柔剣道場を関係者控え室等として活用



② 国際大会・プロスポーツ及び県大会・全国大会等（決勝など）

<バスケットボールの例>

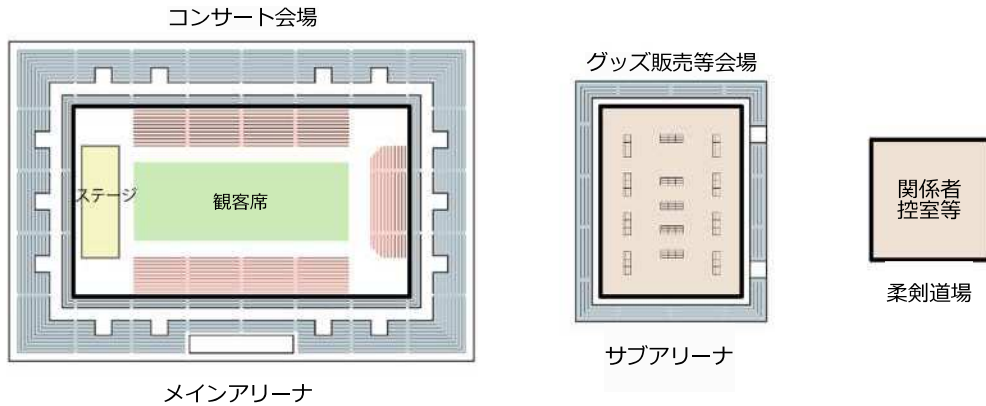
- ・ メインアリーナは、センターコート1面を試合会場とし、周囲に観客席(可動席・移動席)を設置
- ・ サブアリーナは、ウォーミングアップ会場として利用
- ・ 諸室は、VIP室, マスコミ対応, ドーピング関係, 会議室などで利用
- ・ 柔剣道場は、関係者控え室等として活用



(2) 多目的利用

① コンサート

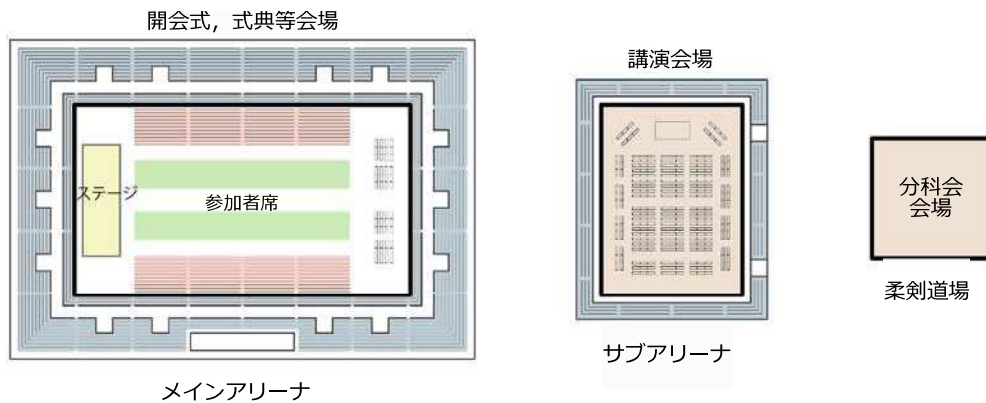
- ・メインアリーナをコンサート会場として利用し、サブアリーナをグッズ販売等の会場に活用  
諸室は、柔剣道場を関係者控え室等として活用



② その他イベント (MICE)

- ・メインアリーナは、学会・国際会議等における開会式、式典等や、展示会における展示ブース会場などに利用
  - ・サブアリーナ、柔剣道場、諸室等については、その他講演会やワークショップ、パネルディスカッション等の会場として活用
- ※ コンベンションの規模によっては、本施設をメイン会場、周辺の既存施設をサブ会場にするなど、周辺の既存施設と連携して取り組むことも想定

<大会 (国際会議等) の例>



<学会の例> ※メインアリーナは展示会場として使用  
展示会場

